

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771700899		
法人名	医療法人愛友会		
事業所名	グループホームオリーブ苑		
所在地	香川県三豊市詫間町詫間679番地40		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 9 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は自然豊かな住宅街にあります。コロナ禍であっても利用者のストレスをなるべく軽減できるように、レクリエーションや季節の行事に力を入れています。外出が難しい中、日当たりの良いテラスで、お茶会をしたりゲームをしたりと心地よい外の空気に触れて頂いたり、楽しみのある生活を送って頂けるよう職員全員で工夫しています。また苑内は利用者と職員が家族のように家庭的な明るい雰囲気です。利用者の体調管理に努め身体機能の維持、向上ができるよう、一人一人のニーズに合わせた支援を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771700899-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 23 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「車の駐車をどこにしたらいいですか」と確認を取った時から、玄関を去るまで、管理者は、ずっと笑顔を忘れず投げかけてくれ、心温まった。リビングに入ると氷川きよしのズンドコ節に合わせた体操を介護度が高くて肘まで伸ばしながら元気に声を発し、笑顔で身体を動かしていた。大判のランプの神経衰弱、テラスでお茶会、シャボン玉、歌を歌う、カラオケ、敷地内の散歩など管理者は、入居者の希望に沿って喜べる体制を職員と築いている。職員も入居者に優しい言葉かけと笑顔に徹し、人生の先輩として尊厳を以って対応しているところも、指図しているのではなく、職員一人ひとり自ら心から発していたのが確認できた。絵心がある職員さんに対しても、「こんな絵を描いたら」とお願いしたら、年齢問わず、全員が、「お願いします。」と心から声を発していた。厨房の職員も台所のプロとして工夫を凝らし、楽しみが増す献立(今回は野菜たっぷりの煮込んだカレーとマカロニサラダ)に腕を振っていた。「これから美味しく食べよう」と願いを込め、利用者全員が「エイ・エイ・オー」と3回大きな声で唱え、食卓に箸を向けていた。健康、遊び、食事を生活に程よく溶け込ませ、一人ひとりの笑顔が自然と湧くように愛を投じていた。職員、利用者が笑顔のかたまりを投じている施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛情、やさしさ、尊重を理念とし、サブタイトルをかけた、職員全員が理念を理解して共有している。利用者の変化に気を配り、その人らしく、地域で暮らせるように支援している	理念は、事務所に2ヶ所、リビングに3ヶ所、掲示していて、いつでも職員の目に触れることができている。毎日の申し送り時の際に、理念を唱和することで浸透している。今年目標とサブタイトルを事務所に掲示していて、管理者の思いは、職員、利用者が笑顔で過ごして頂けるように日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの流行前までは、地域の民生委員さんによるコースボランティアや朗読ボランティアの皆さんと毎月交流していたが現在は行えていない。3月は利用者と職員が共同で作成した作品を文化祭に出展し交流することができた。	地域が主催する文化祭に参加し、職員と利用者と一緒に作成した書初め、鬼のお面、貼り絵を展示することができた。その際に、地域の方と話す場があり、交流を深めることができた。犬の散歩をしている方や夏にはセミ採りにくる子どもに会えば挨拶を交わす関係ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の職場体験や専門学校からの実習生の受け入れを毎年行っていたが感染防止のため現在は行っていない。認知症高齢者の家族の悩みや不安などの相談にのるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面での会議を行っている。事業所の出来事やサービスの現状を報告し、意見を頂き、サービス向上に活かせるようにしている。	入居者状況、事故やヒヤリハット、行事報告をしている。介護保険課、民生委員、老人会会長、併設する施設の長、家族代表に郵送している。多くの意見が寄せられ、管理者がまとめて報告をしている。「コロナに勝ちぬこう」のメッセージが職員の励みとなっている。	コロナ終焉に向けて、今から準備を始めようか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で事業所のサービスの取り組みについて伝えていく。現在は書面での開催ではあるが議事録を送付し関係性を継続できるよう努めている。	管理者が窓口となっているが、不在の場合は、元管理者が窓口となっている。研修の案内やコロナ関連の情報交換をしている。市とは、主治医の意見書提出や認定調査の際に顔を合わせることもある。さらに県からは、検査キットが欲しいとの要望を出したら、検査キットを施設に届けて頂いたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針に基づき、委員会は3か月に1回以上、定期研修は年2回以上、新人研修も行っており拘束しないケアができるよう取り組んでいる。	身体拘束はしていない。身体拘束や虐待防止についての研修も行っている。勉強会では、インターネットより事例を取り上げて、職員間で意見を出し合っている。スピーチロックの研修も行って、日々のケアでロックがかかっていないかどうかを再確認する場となっている。	スピーチロックについてさらに深めてみてはいかがでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と虐待防止委員長と中心となり委員会、研修会を定期的に行い虐待防止に取り組んでいる。虐待行為とは何か共通意識を持ち意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な場合は相談に応じ、関係機関への橋渡しをしていきたい。職員が学ぶ機会を定期的に取り、職員の理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また料金改定の際は、書面に基づいて説明、取り交わしを実施しており理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑独自のアンケート調査で意見や要望を引き出せるようにしている。面会時には気軽に話せる雰囲気を作り家族との信頼関係を築いている。	面会は玄関でガラス越しにて実施している。その際に、家族の方から意見を聴取したり、今年度は家族アンケートを実施したりしている。アンケート結果は、満足度が高く、良い意見を聞くことができた。利用者に「何がしたい?」「何が食べたい?」と聞き取ることで、要望を叶えやすくしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、定期的ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、心身ともに元気で日々楽しく勤務できるよう努めている。	ミーティングを2ヶ月に1回開催し、意見を聴取している。日々の業務中にも意見が飛び交い、年齢や役職を問わず、何でも言える関係ができている。管理者は、会議は職員に委ねて心配りに徹している。早出の職員の役割として、朝食、お風呂介助と清掃のスケジュールをこなし、1日の日課としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けての支援を行い、取得後は本人の意思を重視し活かせるように努めている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、人間関係を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりの力量を把握している。法人内外の研修に参加することを勤めている。内部研修は行っているが外部研修はコロナ禍で不十分ではある。今後は積極的に参加できるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣施設での研修や季節の行事など感染防止のため、途切れることもあるが交流できておりサービスの向上に繋げている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族の意向だけでなく利用者本人の意思、意向を良く聞くことを大切にしている。安心を確保できるよう入居前の情報は職員全員で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を聞いたり、暮らしの情報を参考に出来るだけ希望に沿えるよう、また信頼関係を早期に築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で本人や家族がどのような支援を必要としているかを考慮し、職員で話し合い、相談しながら必要なサービスに繋げるように努めている。また隣施設を紹介する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを職員全員が共有し、しきたりや昔の話などを教えてもらっている。またご本人の自主性を尊重し良好な人間関係が構築できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はガラス越しに行っている。本人、家族の思いや状態をこまめに報告、相談している。ガラス越しの面会は本人と家族との潤滑油のように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年住み慣れていた地域での生活を大切に、本人の友人や近所の方が面会に来られる。感染防止の為、ガラス越しではあるが楽しそうにお話される方もいる。地域の友人等が気軽に来苑できる雰囲気作りに努めている。	コロナ禍であっても、馴染みの人の来苑もあり、「なかなか会えないが、ここでは会えるので嬉しい」との感謝の言葉が述べられた。訪問美容師の方が今ではすっかり馴染みの関係となっている。近隣の公園に散歩に出掛け、子どもの遊んでる様子を見るのが楽しみの1つとなっている。年賀状、暑中見舞いを利用者が書き、家族に送ったら喜んで頂けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しており、トラブル発生時は席替えや雰囲気作りを配慮している。利用者同士の関係がうまくいくように常に見守りして支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療が必要になった場合、医療関係者に本人の状態報告をしている。お見舞いに行き、家族の相談にのったり、電話で状態を聞いたりして支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、表情や言葉から本人の思いを汲み取るようにしている。意思疎通が困難な場合も本人の思いを汲み取れるよう努めている。	リビングでは、利用者の要望に合わせて、オルゴールのBGMが流れていて、ゆったりと過ごしている様子が窺えた。言葉をあまり発しない方へは、「うん」や「ううん」の小さなサインも見逃さずに、表情や仕草から読み取るように工夫している。日報に記入することで情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から生活歴などの情報を得ている。本人の得意な事を発揮できるように努めている。認知症が重い方でも会話の一部や生活の中で過去の暮らしや生活環境を汲み取るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや職員からの情報で一人ひとりの心身の状態や生活リズムを把握し本人のペースに合わせた生活が過ごせるよう支援している。できる力、理解する力、状態の変化等を把握して、確認、記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人の意思や家族の要望をケアプランに反映させるようにしている。職員間で意見交換し、モニタリング、介護計画を作成している。	入居時に暫定プランを立てて、何もなければ3ヶ月、入院時や介護保険更新時に見直しをしている。モニタリングは3ヶ月に1回実施している。担当制を敷いていて、ケアマネージャに情報が集まってくる。家族からの要望を聞き取り、担当者会議にて話し合うことで、プランに反映させることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテにバイタル、食事量、排泄、睡眠、表情、言動に注意しながら記録し、一人一人の状態を把握し、本人のペースに合わせた生活を支援し、職員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望、要望に応じて、その時必要なサービスを臨機応変に対応している。必要に応じ勤務変更することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員のコーラスボランティアや朗読ボランティアが定期的に来られていたが、感染予防の為に利用していない。3カ月に1回訪問理容サービスを利用している。馴染みの方なので喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診があり、状態報告をして内服処方してもらっている。主治医の先生が来られると皆さん大変喜ばれる。状態変化があれば早急に受診している。主治医の指示等は周知し共有している。	かかりつけ医は、全員が協力医となっている。母体の主治医の先生が馴染みの関係となっていて、会うのが楽しみな利用者が多い。月2回の往診があり、何かあれば隣接するサ高住の看護師が駆けつけてくれるので安心できる。歯科は、何かあれば訪問して頂ける関係となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時や判断が難しい場合等、母体の病院と連携を取り、隣接する施設の看護師が必要に応じて対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、病院への訪問を実施し経過の把握をしている。事業所の対応可能な段階になれば速やかに退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、主治医と話し合い、本人にとって最善のケアが受けられるように支援している。事業所が対応できるまで職員全員で対応している。看取りに関しては行っていない。	看取りは実施していない。入居時に、「入院に際しての合意書」にて説明をし、同意を交わしている。看取り期に差し掛かった場合には、家族やドクターと相談をして、隣接する施設へ移られたり、入院したりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ミーティングを行い、緊急時の対応方法の勉強会を行い、異常の早期発見、早期受診が図れるように支援している。安全対策委員会を中心に事故防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、隣の施設と合同訓練を行っている。また、火災、水害、地震の苑独自の訓練、夜間想定訓練を外部法人の指導のもと年1回行っている。	年2回、隣接する施設と合同で火災訓練を実施した。施設単体では、夜間想定で、火災・地震・津波の避難訓練を実施した。外部法人の方が講師として来られ、消火器の使い方や通報訓練を実施することができた。備蓄はノートに記載や定期的に見直していて、賞味期限間近のものを食すことで、フードロスをなくしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に対する言葉かけについて、日常的に確認し、事業所全体で具体的に話し合っている。本人の尊厳を第一に声かけには十分に注意している。	呼称は、苗字か下の名前に「さん」付けて呼んでいる。利用者に対しては、優しい言葉を掛けるようにしている。利用者は人生の先輩なので敬う気持ちで接するようにしている。排泄失敗時には、周りに気づかれないようにさり気なく誘導し、プライバシーの配慮ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを無理に押し付ける事はせず、一人ひとりが自分で決める場面を作るようにしている。些細なことでも自己決定ができるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、体調や気分に合わせて、起床、就寝、食事、入浴等、できるだけ個別性のある支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に馴染みの理容師の訪問散髪を行っている。離床時には整容の乱れを整え、食後の食べこぼしや、口回りの清潔に気を付けている。毎朝化粧をされる利用者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の音やにおいで五感を刺激して、食事への関心を引き出すようにしている。旬のものを提供し何が食べたいか尋ねたりしている。コロナ禍前は職員と利用者が同じテーブルで楽しく会話しながら食事をしていたが現在は感染防止の為、一緒に食事はできていない。	料理専門担当の職員がいて、和え物や煮物が利用者に好評。その日の冷蔵庫と相談して、食事を提供しているので、フードロスがない。誕生日には嗜好調査をし、手作りお寿司のメニューが多い。行事食として2月には、恵方巻を利用者が巻いている様子を写真からも窺うことができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や、一人ひとりに合わせた食事量、食事内容、食事作りをしている。食事チェック表、排泄チェック表や申し送りなどで、その日の状態を把握し、足りない時は、その都度補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し夕食後には義歯洗浄剤を使用している。一人ひとりの力に合わせて見守り、声掛け介助を行っている。自分で出来ない方は職員が介助し、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や申し送りにより一人ひとりの排泄状況を把握している。尿意のない方にも定期的にトイレ誘導してトイレで排泄できるようにしている。紙パンツやパット類も本人の状態に合わせて見直しを行っている。	トイレは3ヶ所あり、車イスが通れる広さとなっている。リビングに、トイレの声掛けタイミングの表を貼ることで、利用者が自らトイレへ行ったり、職員の誘導がスムーズにできるようになった。介護度が高い方でもオムツを使用している方はおらず、トイレで排泄することができている。布パンツで過ごしている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により便秘の把握をして、申し送りで職員が共有するようにしている。毎朝、牛乳などの乳製品、繊維豊富な穀物、日常的な水分補給が摂取でき自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	羞恥心のある利用者にはタオルをかける等の配慮をしている。入浴拒否の方には無理維持せず、職員が交替で声掛けしたり、順番を後にしたり、翌日に回したりし個々に添った支援を行っている。	入浴は週2回の提供。湯船に浸かる方へは、30分程の時間を取ることでゆっくりと入浴して頂き、歌を歌って気持ちよく入浴する方もいる。シャワー浴の方には、足浴も提供している。嫌がる方へは、お風呂というワードは使わずに「足を洗いに行こう」と言葉掛けをしている。季節湯として、ゆず湯の提供をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を優先し就寝、起床時間を設けていない。夜間不眠時にはお茶を一緒に飲んだり話し相手をし、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の説明書や処方箋をすぐに見れる所に置き、職員全員が内容を把握できるようにしている。定期的に主治医に状態報告、相談、指示を仰ぎ、内服の確認をしている。服薬の変更や中止などは職員に周知している。服薬時は手渡し、服薬の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の経験や知恵を発揮する場面を常に探し考えている。洗濯干しや洗濯たみをお願いし感謝の言葉を伝えている。一人ひとりの力に合った活動をして頂き生活動作の維持、向上を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症カフェに参加したり、ご家族の協力得て、定期的にドライブや、お墓参り、外食を楽しまれていたが現在は感染防止のため行われていない。	コロナの状況を見て、敷地内の散歩ができるようになった。施設内のテラスに出て、お茶会を開いたり、シャボン玉を飛ばしたりして外気に触れる機会を設けている。歌が大好きな利用者が多く、カラオケ大会を開催したことで、利用者のフラストレーションが溜まらないように工夫をしている。年間行事としてカラオケ大会、母の日の会、ドックセラピー、お茶会を開催した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より現金を少額預かり、事業所が管理している。利用者の中には自分で所持しておられる方もいる。買い物に行くときには、職員見守りの中、直接支払いをしていたが現在はコロナ禍の為行われていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の申し出があれば自室で電話をできるようにしている。家族からの贈り物があればお礼の電話を掛けることもある。遠方におられる家族の方は利用者の携帯電話を利用しラインで職員が代わりにやり取りしたり、写真を送ってきて下さったり、こちらから送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内は明るく日差しが十分に注いでいる、夏場は日除けをし自然の風が感じられるようにしている。大きな窓があり、天候が良い日はテラスでお茶会をしている。フロアには季節の花を飾ったり、掲示物を張り、春夏秋冬が分かりやすいように努めている。	職員が考案したオリジナル体操をした後に、ティータイムを楽しんでいた。オルゴールのBGMが流れて、落ち着いて過ごしていた。利用者同士が神経衰弱を楽しそうにしている姿が印象的だった。職員が作ったオリジナルパズルをして過ごす利用者もいる。季節を感じられるように、大きな桜の木の貼り絵が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーには掘ごたつがあり、好きなテレビを視聴したり、月に数回カラオケをしている。肩もみ機も置いており、利用者がいつでも自発的に利用している。思い思いに自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の手作りカレンダーや家族との写真、自宅から持参された置時計、また、習い事をしておられた方で大正琴など趣味の道具を置き心地良い居室となるよう意識している。	備え付けは、ベッド、洗面台、鏡、クローゼット、エアコン、カーテン。天気の良い日には、窓から日の光が差し込む居室となっている。旦那さんや孫の写真を飾ることで、家族を身近に感じることができている。昔、大正琴を弾いていた方が、元気な時には演奏会をリビングで開催していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーになっており、床はクッションフロアで転倒の衝撃を吸収するようになっている。利用者が歩く動線には物を置かないようにしている。トイレまでの目印や張り紙をし安全で安心感のある生活を過ごせるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				